

守山中心市街地地区

(滋賀県守山市)

- 計 画 期 間 平成 22 年度～25 年度
- 面 積 146ha
- 交付対象事業費 1,592 百万円
- 市人口 81,548 人 (地区内人口 12,244 人)

ポイント

教育文化施設や高齢者福祉機能が整備され、幅広い世代が共生できる環境が整ったことにより、歩行者・自転車通行量が増加したこと、また、まちづくり会社(株みらいもりやま)の精力的な活動により、ソフト事業が軌道に乗り新たな人の繋がりが生まれてきたことなどハード事業とソフト事業が上手く稼働し中心市街地の活気が戻りつつあります。

地区概要

守山市の中心市街地は今も人口が増加しており、30～40 才代の子育て世代や 65 才以上の高齢者が多い状況です。また、地区特性として中山道をはじめ勝部神社、源内塚などの歴史的資源が数多く残っています。

目 標

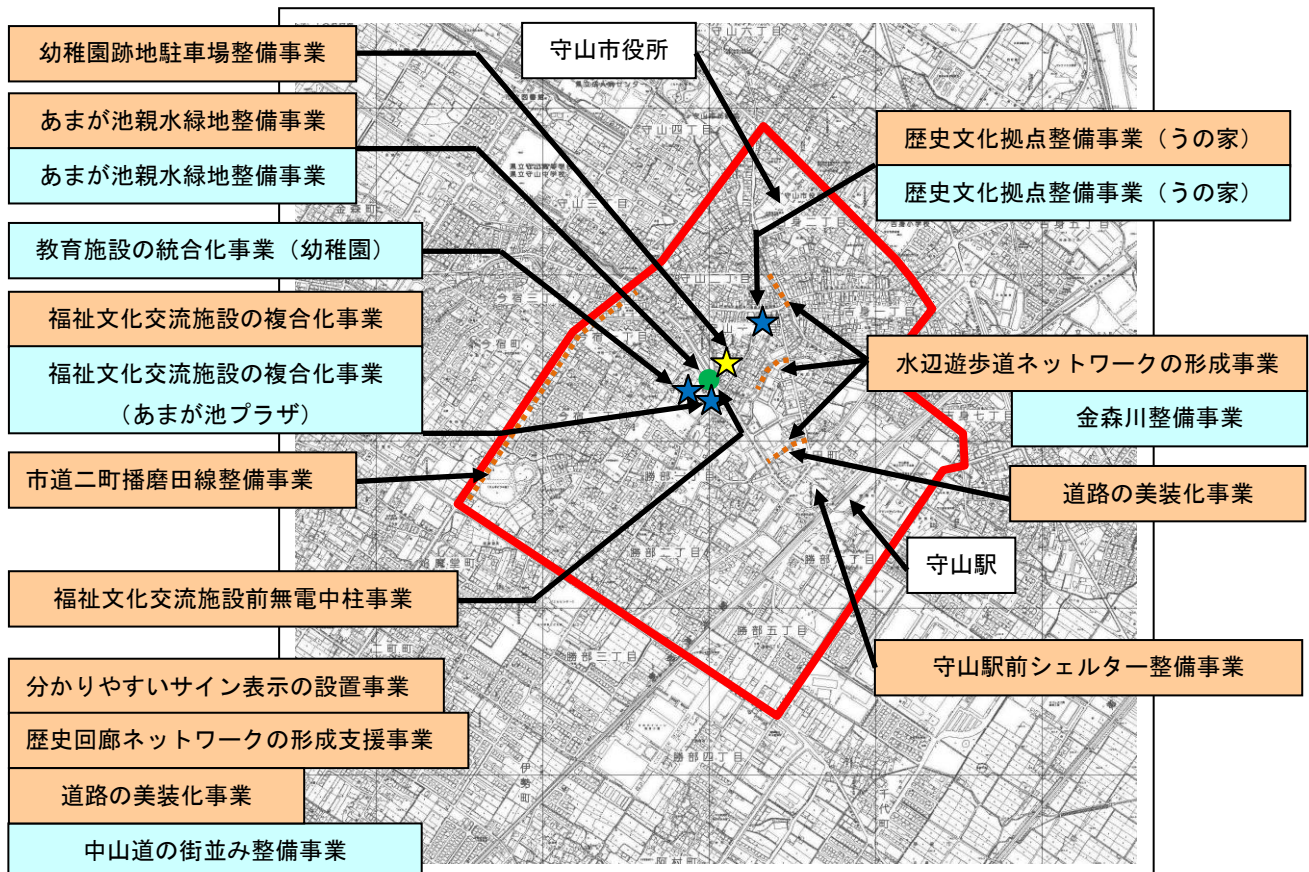
『絆と活力ある「共生都市」の創造』

指 標

歩行者・自転車交通量(人/日)	6,002(H19年度) ⇒ 6,200(H25年度)
中山道の散策率(%)	43(H19年度) ⇒ 50(H25年度)
市民交流センターの利用者数(人/年)	9,684(H20年度) ⇒ 11,100(H25年度)

事業内容

基幹事業 (1,060 百万円) ⇒ 道路 (幅員 16m、820m)、公園 (1 箇所 1,100 m²)、地域生活基盤施設 (駐車場 1 箇所、2,400 m²)、既存建造物活用事業 (歴史文化拠点)
 高次都市施設 (守山小複合化施設)
 提案事業 (532 百万円) ⇒ 地域創造支援事業 (幼稚園、交流施設等)



地区の現況と課題

中心市街地では、人口が増加しており、年齢別人口分布としては 30～40 歳代の子育て世代や 65 歳以上の高齢者世代が多い状況である。

特に 30～40 歳代の人口が急激に増加していることから、多様なニーズに応えるため、早急に教育文化施設の充実が必要である。また、現在の子育て世代が急激に高齢者となるため、将来を見据えて高齢者福祉施設の充実が必要である。

さらに、中心市街地では新規住民世帯の割合が 7 割を占めており、新規住民と既存住民、および新規住民同士の間関係の希薄化によるコミュニティの衰退や地域力の低下が懸念されます。

提案事業の特徴

○歴史文化拠点の整備 町家を活用して、守山の歴史文化の情報発信や物産販売を行う施設として整備

○福祉文化交流施設の整備 守山小学校と守山幼稚園の合築に合わせ、公共施設（市民ギャラリー・介護予防教室・多世代交流施設・地域活性化施設）を整備

○中山道の街並み整備 中山道守山宿等地区計画区域内の沿道に面した建築物等において、地区計画および施工基準に適合した場合に助成

まちづくりの効果、持続的取り組み

○福祉文化交流施設の整備 地域活動の場が広がり活発な活動が展開されるようになった。

⇒歩行者・自転車交通量の増加および公共施設利用者数の増加に繋がる。

○幼稚園跡地駐車場整備事業 利用しやすい駐車場整備によって、パーク&ウォークにより周辺施設へ訪れたい環境が向上した。

○新たな交流の機会の増加 コミュニティーの強化が図られ、地域住民の活動が増加した。

○マンションの増加 中活計画認定以降、7 棟（計 432 戸）のマンションが建設された。

○持続的な取り組み 商工会議所、みらいもりやま 21 そして市が定期的に集まり、常に意思疎通を図ってきた。

宮本和宏市長のコメント

本市では、JR守山駅周辺の中心市街地の活性化と都市再生整備計画をうまく連携させることにより、当初掲げた目標を大きく上回る成果が得られました。その一つの理由は情報共有です。商工会議所、まちづくり会社みらいもりやま 21、市のトップが定期的に集まり、事業の進捗、イベント開催、施設利用者の状況等を確認することにより、関係者の意思疎通を図っています。「計画の作成がゴールとなり、あとは全て担当者任せ」という団体がありますが、本市では「トップと現場職員が常に意識を共有し、課題解決のときにはしっかり寄り添って一緒に行動し、解決する。」という姿勢で取り組んでいます。今後もより一層関係者と情報を共有し、活力ある「住みやすさ日本一のまち」を目指していきます。



写真1 あまが池プラザ



写真2 あまが池プラザの催し
【ベビードダンス】



写真3 中山道の街並み整備



写真4 うの家の催し

守山商工会議所会頭 清原 健氏のコメント (前みらいもりやま 21 社長)

守山市では中心市街地の活性化として、歴史文化拠点（うの家）、多世代交流施設（あまが池プラザ）そして駅前の「チカモリ」と、国の大きな支援をいただくなか、にぎわいづくりの拠点が生まれました。まちづくり会社「みらいもりやま 21」の果たした役割には大きいものがあると思います。6年間みらいもりやま 21 の社長として心がけてきたことは、住みよいまち守山の特徴を最大限活かしつつ、適度なにぎわいを生み出すことでした。一発花火ではなく小規模なイベントや事業を行うことにより、少しずつ連鎖的ににぎわいが生まれ、市民の方にも認知されるようになりました。

みらいもりやま 21 のスタッフの頑張りはもちろんですが、市職員のぶれない支援が大きかったと思います。まちづくりのリーダーはあくまで市長です。守山市は強い市長のリーダーシップのもと、関係団体の「絆」が強みです。まちづくりは道半ばですが、みらいもりやま 21 がさらに進化して、もっと市民に愛されるまちづくり会社となれるよう、これからも応援したいと思います。

守山銀座商店街 店主 松谷 悦男氏のコメント

私は中心市街地にある守山銀座ビル協同組合の店舗付き住宅で商売と生活をしています。市の中心市街地活性化計画の施行以降、商店街に隣接した幼稚園・小学校の合築事業に伴い、子育て世代が商店街を歩き来し、子どもたちの活気が表立つようになりました。もともと地元自治会などの地域活動が活発なところに「あまが池交流プラザ」と「あまが池親水緑地」が整備されたことにより、今までにも増して幅広い世代が繋がりを持てる場が増えました。また、商業者にとってもまちづくり会社みらいもりやま 21 の企画する商店街活性化「三種の神器（100 円商店街、バル、まちゼミ）」事業により停滞していた商店街にも少しずつ賑わいが戻りつつあります。そうした環境に甘えることなく商店主も今以上に努力をしていかなければならないと思います。



写真 5 守山夏祭り（銀座商店街前）